一般財団法人 愛の田園振興公社
（道の駅 あいとうマーガレットステーション）連携図

（旧・愛東町）東近江市

湖東農業協同組合

愛東商工会

第三セクター

一般財団法人愛の田園振興公社

道の駅 あいとうマーガレットステーション

エコプラザ 菜の花館
（NPO法人愛のまちエコ倶楽部運営）

Rapty
愛東産のメロン・ぶどう・梨などの果物や、新鮮野菜、ハーブを、ジェラート・ジュース・ジャム・焼菓子などに製造して販売。

田園生活館
- ショップ
- 花工房
- レストラン（商工会に委託）

花畑・体験農園

倶楽部リンデン

愛東まるごと食館
（商工会運営）

材料を購入

材料を購入

あいとう直売館

売上から手数料を引き生産者へ

手数料のうち一部を事務局へ

直売館で購入する以外に、生産者から直接材料を仕入れる

出荷

売上

生産者（247人登録 2016年4月1日時点）

あいとう直売館 運営協議会

- ぶどう部会
- 梨部会
- メロン部会
- いちご部会
- 果樹部会（ぶどう・梨・メロン・イチゴ以外）
- 野菜部会
- 農産物部会（きのこなど）
- 加工品部会
- 花部会

農業指導

事務局 湖東農業協同組合

JA湖東 代表理事組合長
野田敬治さん（72）

道の駅あいとうマーガレットステーションの開設当時、JAの営農担当として関わる。「行政と生産者と農協が三位一体でやっていこうという気持ちが、マーガレットステーション設立の原動力になったと思います」と野田さん。

あいとう直売運営協議会 副会長
野菜部会 会長 青山貞雄さん（左・65）

野菜部会では、豚汁や野菜スープなどをテーマにした様々なイベントを開催。「自分が作る農産物だけでなく、加工品も含めすべての商品が売れるよう、お客様と直接話せる機会を設け、“こんな食べ方があります”という提案をしています」と青山さん。

あいとう直売運営協議会 会長
野村秀一郎さん（60）

「100％地元産の農産物を販売するということは、他の地域の農産物は仕入れないということ。お客様に満足していただくために、「足りないものは地域で作ろう」を合言葉に、指導をしていくのも運営協議会の役目です」と野村さん。

あいとう直売館 運営協議会 をリードする三人

田園生活館

田園生活館のドライフラワーもマーガレットステーションで販売される6次産業化商品のひとつ。田畑の一部や休耕地を花畑に変えて花を作り、マーガレットステーション内の工房を使ってドライフラワーを製作している。

愛ラブドライフラワークラブの川瀬三佐子さん(74)と小椋千恵子さん(68)。

Rapty

Raptyの人気商品のジェラートには、地元産の牛乳や米、野菜などが使われ、その種類は季節メニューも含め100種類以上にもなる。

Raptyの加工室には、米を製粉して米粉にする機械もあり、毎月「0」が付く日には、米粉を使ったドーナツを販売。開店前から行列ができるほど人気を集めている。

あいとう直売館

道の駅あいとうマーガレットステーション内にある「あいとう直売館」。地元産100%、年間350品目以上の農産物や加工品が出荷され、年間40万人もの消費者が訪れる。

生産者が6次産業化に取り組んだ加工品だけで、約1億円の売り上げがある。

生産者の自主性を尊重した運営協議会の存在とJA

マーガレットステーションに登録している生産者たちは、「あいとう直売運営協議会」を結成。運営協議会は、東近江で生産される農産物で9つのグループに分け、それぞれのグループで協議したことを、2か月に一度開かれる運営協議会で報告。課題を持ち寄って検討したり、新しい会員の入会を審査したりもする。たとえば、生産者がローテーションで直売館の売り場に立ち、消費者に農産物の説明を行う「整理員」も協議会から生まれたシステムのひとつ。整理員は自分が出荷した農産物に限らず消費者から説明を求められるため、知識が必要となり、生産者同士の情報交換のきっかけにもなっている。

運営協議会の事務局となるJA湖東の代表理事組合長を務める野田敬治さんは、「運営協議会は、マーガレットステーションに登録している247人の生産者が主体です。そして、生産者の意見を集約して、9つの部会の会長、副会長が、積極的に動いていただいています。切磋琢磨して一生懸命に農業をされている皆さんの励みになるような研修を用意したり、運営協議会のフォローをしたりしていくのが事務局の役割です」と話す。

地域の核となる直売所を目指して

「マーガレットステーション全体の売り上げは約7億円で、そのうち加工品の売り上げが約1億円になります。天候の理由などで青果の品数が少ない場合には、加工品でカバーしなければならないこともあります。生産者からすると、6次産業化に取り組むには、経験や拠点となる施設がないと難しいものです。まずは、Raptyで商品化されたものを見本として見てもらい、生産者が『自分たちにもできる』と思えたら、加工室を使って6次産業化に取り組んでもらいます。自分の作った野菜や花が、6次産業化で商品になる。それが爆発的に売れたり、美味しいと言われたりしたら、生産者にとっては嬉しいですし、それが一番の幸せだと思います」と藤関さん。

田園生活館で販売されているドライフラワーは、そうした藤関さんの思いが結実した、マーガレットステーション最初の6次産業化商品だった。今後の展開について、「行政と愛の田園振興公社、そして生産者が一緒になって、地域の核となる直売所を目指していきたい」と藤関さんは話す。

道の駅 あいとうマーガレットステーション
指定管理者:一般財団法人 愛の田園振興公社

住所:滋賀県東近江市妹町184-1
営業時間:9:30～18:00(季節・施設により変動あり)
定休日:火曜日(祝日の場合は営業、あいとう直売館5～11月無休、11月全館無休)
TEL:0749-46-1110
http://www.aito-ms.or.jp/

持続可能な農業と6次産業化を支援

東近江市では、現在、「東近江市6次産業化推進戦略プラン」を策定中です(3月中策定予定)。これまでの6次産業化に向けての動きでは、持続可能な農業と農産物の新しい活路と流通システム作りを推進していくために、東近江市と愛の田園振興公社、市内4つの農協、ヤンマーアグリイノベーション(株)が連携し、東近江市フードシステム協議会を2011年に設立。協議会では関係機関と連携しながら、需要の見込める加工・業務用野菜の低コスト実証栽培を実施し、機械化による省力化を促進しています。

販路開拓では、学校給食への導入や商談会への出展など、野菜栽培の拡大に繋げていけるノウハウづくりに取り組んでいます。また、生産者を募り、野菜づくり全般の基礎を学ぶ研修などを実施しており、Iターンで新規就農される方もいます。

東近江市産業振興部農業水産課
フードシステム推進係 副主幹
塚本(つかもと) 明(あきら) さん